

地域でつながって！ 認知症カフェでつながって！

発行：京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課
電話：075 (746) 7734

平成 29 年 8 月



認知症カフェは、認知症の方やその認知症のご家族の方の居場所であったり、認知症の方やご家族が専門職と出会う場であったり、様々な面があります。地域で認知症カフェは増え、たくさんの関係機関やボランティアさんに支えられている認知症カフェですが、認知症カフェの運営に困ったりしたことはありませんか？

今回は醍醐地域で、認知症カフェ主催団体がつながりを持って取り組みをしている内容をご紹介します。

それは…「醍醐認知症カフェ連絡会」！

どんなことをされているのか、幹事役の高齢サポート・醍醐南部の宮代さんからお話をお聞きしました。

醍醐認知症カフェ連絡会について

目的

地域で運営している各団体の認知症カフェの情報を共有すること。それによりイベント内容、利用者の紹介等の情報交換だけでなく、運営上の悩みや工夫を共有し、認知症カフェの運営を継続すること。

出席者

醍醐地域で認知症カフェを運営する代表者

参加している認知症カフェ団体等 ※カッコ内は実施主体

カフェ de おれんじサロン (社会福祉法人同和園)、 丘のうえ (社会福祉法人同和園)、
オレンジサロンひのぼっこ (社会福祉法人同和園)、 ほっこり☆カフェ (社会福祉法人京都福祉協会)、
オレンジサロンほっこり (社会福祉法人京都老人福祉協会)、 オレンジカフェただ (医療法人医仁会)、
だいき de オレンジカフェ (京都市醍醐いきいき市民活動センター) 合計 7箇所 4団体
高齢サポート・醍醐南部、 高齢サポート・醍醐北部、 醍醐支所健康長寿推進課

開催頻度

2か月に1回 (第4木曜日)、1時間/回

内容

それぞれの認知症カフェの状況報告、認知症カフェに関する情報の共有 (他市の情報等) 等。
新規に認知症カフェをつくる事業所が参加した場合は助言なども。

醍醐認知症カフェ連絡会で取り組むこと

認知症カフェのPR 動画の作成。醍醐認知症カフェマップの作成。

認知症カフェとは？

もの忘れなどが原因で生活に不安のある人やそのご家族が、気軽に訪れることができ、医療やケアの専門職、地域の人々等と交流を楽しみ、認知症のことやその対応などについてお互いの理解を深めることができるカフェです。詳細は各認知症カフェで異なります。※京都市には43か所の認知症カフェがあります (認知症地域支援推進員調べ)。



ここからは醍醐認知症カフェ連絡会をする中で得られた3つのメリットについてご紹介します。

メリット 1

認知症カフェの情報共有を図れる！



醍醐認知症カフェ連絡会は、京都市助成金事業であった「平成 26 年度認知症対応地域支援推進モデル事業」を活用し、醍醐地域の認知症カフェのPRを地域で行おうとすることをきっかけに始めました。

醍醐地域はもともと日常生活圏域も4箇所しかなく日頃から高齢サポート・醍醐北部と醍醐南部が頻りに連携をとっていること、北部、南部の地域包括支援センター（高齢サポート）を受託している団体がそれぞれ認知症カフェを開催していること等から、高齢サポートが幹事役として他の団体を醍醐認知症カフェ連絡会にエスコートしやすかった部分もあります。

醍醐認知症カフェ連絡会の場で顔の見える関係作りができ、日常的に認知症カフェ同士での情報交換ができるようになった今では、認知症カフェ担当者の見識を広げるために、他市の情報やゲストを呼んで話してもらおう等の情報提供の場としても機能しています。

メリット 2

認知症カフェ担当者の不安感を軽減して、モチベーションを維持できる！



事業所内で認知症カフェを担当する人は多くても2~3人程度です。担当者は事業所内で認知症カフェの内容や課題について相談ができずに事業所内で不安を抱えたり、認知症カフェの振り返りができなかつたりします。

醍醐認知症カフェ連絡会はそれぞれの認知症カフェの発表の場でもあるので、情報を共有したり、振り返りをしたり、他の認知症カフェの取り組みを参考に、認知症カフェのプログラムを仕入れることもできます。同じ取り組みをしている仲間が集って語り合うことが不安感をなくして、継続性を高めているのではないのでしょうか。

メリット 3

メリット①②を通じて、醍醐の地域全体が盛り上がる！



平成 26 年度の認知症対応地域支援推進モデル事業の活動当初は、地域として認知症カフェが盛り上がるように、地域の認知症カフェ全体の広報活動を考える受け皿団体として醍醐認知症カフェ連絡会が発足しました。

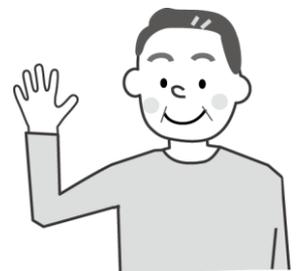
3年経た今では推進事業での助成金はありませんが、年に一度、広報活動を団体ですることとしています。一つの認知症カフェでやりにくい広報活動も地域の認知症カフェ全体で取り組めば、効果的に行えます。

幹事役の高齢サポート・醍醐南部より醍醐認知症カフェ連絡会を代表して一言！

認知症カフェは介護医療福祉専門職の力を地域に還元する一つの「地域貢献のかたち」だと思います。それには、参加者皆さんが「こんなところだったら行ってみたいな」と思えるという雰囲気づくりが大切だと思います。

認知症パスにおける初期支援や後方支援、介護家族交流や当事者への予防啓発といった認知症カフェの機能を大事にするのは勿論ですが、運営側の思いばかりの「お仕着せ」な認知症カフェ運営にならないような工夫も必要です。醍醐認知症カフェ連絡会に参加することで認知症カフェ主催各団体が自分達の活動を振り返ることができるのも良いところです。

参加した当事者・その家族の認知症カフェ後の穏やかな表情や言葉により、運営する側も「やって良かった」と思え、その思いが、「認知症カフェをやってみよう」と思っている別の団体に広がることで、さらにもっと醍醐地域全体が「認知症にやさしいまち」になっていくと思っています。



宮代さん、ありがとうございました！



編集後記

醍醐認知症カフェ連絡会の取り組み、いかがでしたでしょうか。地域の仲間が集うと、距離感も近く、当事者意識が高まったり、具体的に協力し合えたり、認知症カフェを継続するモチベーションが高まるようです。今後もこのような取り組みを紹介したいと思います。また、前回取り上げた認知症初期集中支援チームも増え、その動きについても紹介したいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。 認知症地域支援推進員 平林